

平成 30 年度の主な新規事業・レベルアップ事業の実績報告について【高齢者支援課】

看護小規模多機能施設の開設支援

平成 30 年 12 月 1 日、市内初の看護小規模多機能型居宅介護が開設した。

施設名称	ナースケアたんぼぼの家
運営団体	有限会社多摩たんぼぼ介護サービスセンター
所在地	武蔵野市関前 2-24-13
事業の種類	看護小規模多機能型居宅介護（地域密着型サービス） ※併設事業：訪問看護ステーション 有料老人ホーム（2床）
利用時間・ 利用日	24 時間（訪問サービス）※通い・宿泊サービスは別途利用時間の設定あり 365 日
定員	登録 24 名（利用定員：通いサービス 12 名、宿泊サービス 4 名）
構造・規模	木造 耐火建築物 地上 3 階建

いきいきサロン事業

高齢者の社会的孤立感の解消と健康寿命の延伸を図り、住み慣れた地域で在宅生活を送れるよう、団塊世代が 75 歳以上となる 2025 年に向けた「まちぐるみの支え合いの仕組みづくり」の一環として、高齢者の集う場を開設・運営する団体に対して支援を行う。

活動内容

- 実施場所：個人宅、団地集会所等
- 実施頻度：週 1 回以上
- 対象者：概ね 65 歳以上の高齢者
- 参加人数：市民 5 名以上
- 安否確認を実施する。



平成 30 年度は 20 か所（←平成 29 年度 17 か所、28 年度 11 か所）

利用登録者数：429 名、平均利用人数：13 人／回（平成 31 年 1 月現在、詳細は以下参照）

	実施回数	市内利用者数	市外利用者数	スタッフ	その他	多世代交流回数	多世代対象者数	共生社会交流回数	共生社会対象者数	利用登録者数	安否確認人数
4月分	71	952	24	286	145	2	16	5	10	369	30
5月分	74	989	27	291	148	0	0	6	12	387	36
6月分	84	1033	26	311	158	3	16	4	4	396	38
7月分	79	958	26	314	157	2	74	5	7	404	37
8月分	68	836	22	262	144	7	45	3	8	414	48
9月分	78	956	25	297	151	1	12	5	5	421	15
10月分	76	972	22	288	172	3	27	4	5	423	23
11月分	78	1022	28	298	116	1	12	6	16	417	17
12月分	69	877	31	263	143	2	24	4	11	432	22
1月分	74	946	30	278	120	9	0	5	5	429	36
2月分											
3月分											
合計	751	9,541	261	2,888	1,454	30	226	47	83	4,092	302

主な施策の取組み「相談支援体制の充実とネットワークの強化」

認知症高齢者の支援

平成 30 年度の取組み

- 30 年度は、B P S D が顕著な高齢者に対する支援に認知症初期集中支援チームの仕組みを活用し、チームによる支援者間のスムーズな意思疎通、情報共有、ケアの検討に取り組んだ。

認知症連携部会ではこの取組みを共有し、関係者が認知症高齢者に対する適時・適切なケアの在り方を考え、今後、必要に応じた情報共有や協力を確認することができた。

医療・介護連携「チーム」による認知症対応の効果

～認知症初期集中支援事業対応事例から得たもの～

- 多角的な本人理解と客観的な状況把握に基づく分析・検討により、妥当性の高い支援方針の立案が可能となった。
- 統一した方針に則った対応(ケア)を行うことで、ケアの効果も明確に把握可能となった。
- リアルタイムに状況を関係者間で共有(※)することで、より実効性・即応性の高い方針の見直しと対応が可能となった。
- チーム員の密接な情報共有により、医療・介護の枠を超えた連携と意識の統一を促進された。

※ チーム員間の情報共有にはMCSを活用。

- また、ダブルケア・トリプルケアや介護離職防止等の社会情勢に対応するため、10月に開催された子育てフェスティバルでは「介護なんでも相談コーナー」を設置したほか、保育園などに認知症相談のチラシを配布するなど、相談機会の拡充を図った。

平成 31 年度へ向けての取組み

- 認知症の方への適時適切な支援体制の強化に向け、医療・介護連携チームによる支援事例を積み重ね、様々な事例を通じて支援をブラッシュアップしていくとともに、医療・介護連携チームによる成果を、ケアマネジャーや介護事業者等へも広く周知していく。
- 様々な方法により幅広い世代に認知症相談事業を周知し、相談機会の拡充を図っていく。